

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470800455		
法人名	有限会社 エフ		
事業所名	グループホーム いせ		
所在地	三重県伊勢市一之木4丁目11-31		
自己評価作成日	平成 25 年 10 月 4 日	評価結果市町提出日	平成25年12月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2470800455-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2470800455-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 25 年 10 月 24 日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域(外)に出かけることが様々な人に様々な影響を与えることを理解し、社会と繋がった生活を継続できるよう日々のケアに取り組んでいます。また地域に出かけることにより地域の方との関係が生まれ広がることにより、認知症への理解が広がっていくことを願って日々実践しています。

当ホームも開設から11年を迎え入居者の高齢化、重度化が進んでおりターミナルケアも必要となってきています。支援2から終末期の方までのケアをグループホームで行うことは設備面や医療面でも大変なことです。協力医や訪問看護の方、家族の協力で実践しております。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関を入ると古風な作りで落ち着いた、ほっとする空間が感じられた。高齢化・身体状況が進む中、外出の機会が少なくなっているが、今までの生活と同じ様に少しでも社会との繋がり、また、五感の刺激にもなるので時間の許す限り外出の機会を増やし、また、最後までここで良かったと思って頂けるように支援を続けている。職員も実務5年以上の経験者が多く、利用者が落ち着いて生活が出来る様にいつも利用者の立ち場に立って考え、日々のケアに努めている事業所である。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員採用時のオリエンテーションで認知症ケア・理念・ケアの実践とその意義について説明の場を持っている。理念を掲示し、実践のためにミーティング等でケアの振り返りを行っている。	”人生の先輩として尊敬し、当たり前生活を支え響き合い(愛)ある関係を築く”を理念として、玄関・事務所に掲示し、毎月ミーティングでその方にとって何が一番大事なのかを考え、さらに五つの視点を掲げ職員は実践共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や喫茶、買い物、外食等外出ケアの実践や、地域行事への参加など日常的なふれあいや交流を行っている。又開設記念行事や交流会を開催し地域の方々をお招きし食事をしたり、歌を歌うなど交流している。	地域の行事(餅つき大会、獅子舞等)、区長会の防災会議に出席している。事業所の開設記念行事(毎年開催)には地域住民が参加して交流を深めている。近くのスーパーに買い物、喫茶店に出掛け、また、散歩時には挨拶を交わし畑仕事の方から野菜、花等を頂いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症を理解して頂くには、認知症の方を知っていただくことが第一と考え地域の方との交流を深め、民生委員、自治会の方からの介護に関する相談などを受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の生活の様子や、問題となっていること、出来事などをしっかりとお伝えしている。又評価の取り組み状況を報告し、意見等があればサービス向上のために活かしていくようにしている。	偶数月に小規模多機能ホームと合同で開催している。包括支援センター・自治会長・民生委員・家族が出席しているが、利用状況・行事案内及び報告が主になっている。	地域との交流、協力体制、外部者との意見、情報交換が大切であり、家族・地域住民に運営推進会議の目的を理解して頂き、議題(身近な話題等)を決めて活発な意見・情報交換がされる事を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定更新の機会や運営推進会議の担当者に入居者の暮らしぶりやケアの実際を具体的に伝えるようにしている。ホームの交流会にも参加していただいている。	介護更新届け、地域密着型サービス会議に参加し研修会等を得て、市担当者との交流はあるが市窓口には足が遠退いているのが現状である。	事業所側から積極的に市窓口に出向き、担当者との事業の運営や利用者に関する相談、情報交換等、協力・協働関係を築かれる事を期待する。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修会への参加や施設内での勉強会を行い理解と共通意識を持つよう取り組んでいる。又ミーティングや申し送り等でケアの振り返りを行い、言動の制止せず心を受容し自由な暮らしを支援している。	年1回マニュアルを用いて勉強会をしている。また、日常のケアの実践で拘束であったかどうかを申し送り、ミーティングで職員間で振り返っている。玄関には身体拘束非常宣言書を掲げ、拘束をしないケアに取り組んでいる。更に今後も外部研修の参加も予定している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法に関する勉強会を行っている。個々のケアについてはカンファレンスにて振り返りを行い尊敬ある支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度についての研修会に参加したり、勉強会を行っている。個々の必要性については家族からの相談に応じ、活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約に関する説明は時間をかけて行い、疑問や不安を残さないように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には手紙や面会時に生活の様子を報告すると共に、気兼ねなく話せる雰囲気と関係性を築けている。運営推進会議に市職員の参加があることを伝え、ご家族に案内を出している。頂戴した意見はミーティングで全体に反映している。	運営推進会議時と家族の面会時に、居室で状況報告をしながら、意見・要望を聞いている。また、利用者の言動・表情・気づきから職員が察し、介護記録で共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	休憩時間を一緒にとったり、ミーティングで職員の意見・要望等を出せるようにし、管理者が代表者に報告し運営に反映させている。	日常ケアの中で、また、休憩時間の雑談で意見・要望などが出てくる。施設長とは現場を通じて長い付き合いなので、普段から何でも言いやすい関係が作られている。最近は利用者個々の特技が生かせるものを揃えてはどうかとの提案もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は実績や個々の努力に対し一定の評価を示している。職場環境に関しては管理者が職員の意見を聞き取り、上申し、環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員採用時には、管理者より認知症ケアについての研修を受けていただき実践現場に入っていくようにしている。また施設内での研修や外部研修への参加も促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県地域密着型サービス連絡協議会及び伊勢地区サービス事業者連絡協議会に加入し研修会や交流会、見学会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用に際しては必ず面談を行い心身の状況の確認し、生活の様子や嗜好などと共に、本人の抱えている不安や要望を会話から受け止められるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前には本人だけではなく家族が抱えている不安や悩み、苦労、これまでの生活の様子などを聞き取り安心につなげていけるようにしている。家族との関係構築の第一歩と考えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みや相談を受けた際には、本人、家族双方の思いや抱えている問題・悩みの把握に努め、必要な支援を共に考え、サービスにつなげるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人のできることを観察し、本人の持っている力を発揮できるように、更には互いに助け合える関係作りを考えながら支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの生活の様子や出来事や職員の思いを家族に伝え、情報を共有し、職員では補うことのできないものを家族にしかないものがあることを理解していただき、協力を願い本人を軸に関係が築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活がホームで生活することで途切れてしまわないように、支援している。(友人との外出・自宅の猫とのふれあい・訪問ミサ・行きつけのカラオケ喫茶や美容室)	入居前の暮らしの情報、生活暦シートで把握し、関係が途切れないように支援している。併設のデイサービスの利用者・友人・知人が尋ねてきたり、手紙・年賀状を出したり、お墓参り・美容室・孫の結婚式に出掛け、中には自宅で以前、可愛がっていた猫と触れ合う帰宅利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の時間に席についていない方を呼びに行く、車椅子の方を元気な方が押して散歩を楽しむ、食事が進まない方に声をかける。様々な場面で見られる支え合いを職員は個々の表情や言動等に気をつけながら見守り、調整を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や事業所に移られた場合は心身の状況や生活の様子等の情報も伝えるようにしている。退去後も家族様の相談(本人の様子、家族の希望、再入居の相談など)に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の場面でふっと出てきた言葉や表情から思いを読み取るように、会話の中で思いを引き出せるように努めている。聞き取った思いや希望はカンファレンスを行い職員が共有し実現に努めている。	日常会話で聞き取った会話・表情・行動の中で介護記録に日々記入し、入居前の暮らしの情報シートからも把握し職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴・病歴・暮らし方・生活環境等のアセスメントを行い、全職員共有している。入居後も本人・家族・友人等の面会時に話をする中で情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察と個々の記録と確認(申し送り・記録の読み取り)の励行により、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の持っている力が発揮され生き生きと過ごせるように、観察と面会等に来られた家族との話しの中で得られた情報、意見、アイデアを活用して現状に即した介護計画を作成している。	センター方式を採用し介護計画作成の一助としている。特に24時間の状態が記入出来るシートを活用しミーティングで職員と検討している。家族には面会時等に意見を聞き3ヶ月毎にカンファレンスで見直しを職員と行なっている。計画されたサービス内容は介護記録で日々記入し確認されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の言動・表情、職員の気づきやケアの実践を個別に記録し職員間の情報共有を図り、介護計画の見直しにつなげている。個別の記録には気づきや本人の様子などを書き込める項目を作り、見やすくしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の生活をより良く支えるために規定概念に囚われず、柔軟性を持って多岐に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	カラオケ喫茶・訪問ミサ個々の豊かな暮らしの実現のため、地域資源を活用し楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居契約時にホーム連携医との24時間連携体制の説明を行い、本人、家族が安心して医療を受けられることを前提に主治医を選択していただいている。専門医療が必要な場合は職員の付き添いで受診していただいている。	入居日に家族と相談し、協力医に受診の同意を得ており、訪問診察が月2回、夜間往診もある。専門科診察には事業所で受診支援して、結果は家族に電話で報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームには准看護師を配置。訪問看護に入ってもらうことにより、連携を図りながら日常の健康管理や医療面での相談・助言を受け適切な受診の支援を行っている。職員の日々の観察がその基盤にあることが全体の機能を生かしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院医師からの情報は連携医を通じて確認したり、MSWや病棟の担当看護師から情報を得るようにしている。2、3日に一度見舞うなどして状態を観察したり、病棟看護師に聞くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化、終末期の対応の希望の確認を行っている。終末期をホームで希望された場合には段階ごとに話し合いを持ちその都度の家族の希望に沿う様になっている。連携医や訪問看護の協力を得ている。	契約時に看取りに係る指針で家族に説明して、医師同席の下、同意書を交わしている。また、ターミナルケアの研修会に出席しており、今まで3名のターミナルの経験があり、協力医の対応方針で職員はチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急蘇生の講習を受講し、緊急、急変時の対応に関する施設内研修を行っている。又事故発生・緊急時の対応マニュアルが各階に掲示してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時対応のマニュアルを作成し、年2回の避難訓練をおこなっている。対応手順や非常召集の確認を行っている。地域の運営推進会議でホームの状況を伝えたり、地域の防災訓練に参加し、お互いに協力できることは何かを協議している。	併設するデイサービス、高齢者老人ホームと合同で年2回、通報・避難・消火訓練を実施している。職員の非常招集訓練も行ない、地域の防災会議にも参加した。隣のアパートの大家さんにも協力依頼している。備蓄もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの気持ちの動きに配慮し、自分におきかえて気持ちを汲みながらケアにあたるよう心がけている。言葉かけはゆっくりと穏やかに笑顔で心をかけている。	居室の入り口に長い情緒ある暖簾をかけ、目隠しとしている。羞恥心に掛かる事には特に気をつけ、誇りやプライバシー、言動にも心掛けている。個々ひとり一人の日々の過ごし方を尊重し大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活ではマニュアルはなく、個々の過ごし方を大切に考えている。窓から外を見て「今日は何処いくんや」と言われたら天気がいいから出かけようとなることもある。その日そのときの気分で臨機応変の対応ができるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活ではマニュアルはなく、個々の過ごし方を大切に考えている。窓から外を見て「今日は何処いくんや」と言われたら「出かけようか」となることもある。その日その時の気分で臨機応変の対応ができるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居時の面談や本人、家族との会話からこれまでの生活の様子を伺い化粧や毛染め、パーマ、好みの服装などその人らしさをなくさない身だしなみの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	台所に職員が立っているとそばに来て何かしたい様子・・・職員はそれを察しその方に出来ることを考え手伝っていただく・・・日常的にそういう姿が見られる。	メニュー作り、調理は職員がしており、家庭の味が出て大変美味しい。おせち料理、お月見、クリスマス等の行事食もあり誕生日には好物を聞きケーキを作り、食事を楽しんでいる。役割に応じて食器拭き、盛り付け、皮むき等を利用者と一緒に行なっている。また、色とりどりの和食器はより一層食欲をそそっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の体調や食事摂取量を把握し、1日の必要量を摂れる様に支援している。重度な方の食事摂取困難時には栄養補助食品等を準備したり、ミキサー食にして提供したり、食事が進むように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔の汚れは肺炎の原因になったり、食欲が低下につながったりする。長年の習慣を把握し、個々にストレスのかからないよう口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のサインやリズムを把握することに努め、個々の力に合った排泄の自立支援ができるようにしている。又尿意がわからない重度の方もトイレでの排泄ができるよう支援している。	表情・行動を察し、個々の排泄時間を把握してトイレに誘導している。現在、紙オムツの利用者は夜間のみで全員がトイレで排泄できるように支援している。ポータブルトイレを使用している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のために身体を動かす、食物も工夫、健康茶を勧めるなどしている。対応は個々に合った薬や腹部マッサージなどを行っているできる限り薬に頼らず排泄できることを心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望に沿った入浴ができるよう入浴は毎日可能であり、希望には毎日対応。時間帯も希望があれば調整して入ってもらうようにしている。	利用者に入浴の声掛けをして、午前中に入浴をしている。季節湯として菖蒲、家族から頂く柚子、入浴剤を利用している。入浴を拒否される方には時間・日にち・職員を変えて声掛けし、入浴が出来るよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯、就寝時間は決めず個々のリズムに合わせて対応している。眠れない方にはその原因を探るべく観察・情報交換・話し合いを行い、安眠への支援を行うようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更に関しては薬情報だけでなく、申し送りや連絡ノートに変更に理由や服用後の状態の変化を記して全職員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事で得意なことを毎日の役割としたり、優しく明るい方には食事等への声かけをしていただいたり、体力のある方には掃除を手伝っていただいたりそれぞれ力や個性を生かしていけるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くにある喫茶店は行きつけの場所となっている。自宅に猫に会いに行く、墓参、結婚式への出席、選挙など個々の希望に沿うよう外出支援をしている。	季節の花見(桜・菖蒲・梅・薔薇・コスモス・ひまわり・菜の花等)に、五感の刺激となる様に数多く出掛け、外出の機会を増やしている。また、個々の希望でイチゴ狩り、赤福に行ったり、ファミリーレストラン、喫茶店へも出掛けている。家族とお墓参り、自宅の猫に会いに行ったりしている利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の力に応じてお金を持ち、使うことの大切さを理解しており、。外出時に欲しいものを選びレジに行き、言われた金額を財布から出し、つり銭を受け取るという一連の作業を時々声をかけるなどして自分でできるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人、知人などへの電話は気兼ねなくかけてもらえるよう言葉をかけたり、大切な方との手紙のやりとり、年賀状のやりとりを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が混乱や不快を招かないよう考慮しつつ、季節の花や絵、装飾品を飾り、季節感・生活感のある空間作りを心がけている。	玄関は落ち着いた古風な作りとなっている。テーブルにはいつも生花が飾られ、畳のスペースに民芸家具を置き、くつろぎの場になったり、洗濯たたみ場でもある。利用者と一緒に作った季節の作品が飾られ、なんとも言えない綺麗な空間が作られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の他に畳スペース、玄関ホールにはベンチや椅子、玄関外にはベンチを置き寛げるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く安心できる空間にさせていただくために使い慣れたものやこだわりのものがあるれば持ち込んでいただくように家族に伝えている。本人の状態や希望を汲み取る努力をしている。	居室の入口には綺麗な長い暖簾が掛けてあり、ベッド・クローゼット・テーブルが整備されているが、家族の写真・観葉植物・位牌・掛け時計等が家族と相談しながら持ち込まれ、ひとり一人の個性に合った温かみのある居室が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の力をより発揮しやすい環境に整えていくこと、混乱や失敗の原因を考え整備すると共に創意工夫している。		